

羽ばたけ! TUT2021 報告書概要

4 系 (B) 4 年

参加プログラム名	オーストラリア スウィンバン大学 “English for Uni”
研修期間	2021 年 8 月 16 日 ~ 2021 年 8 月 27 日
研修先機関名・所在国	Swinburne University of Technology
研修の概要 (研修テーマや課題、目標・目的や主な研修活動内容、研修で達成したこと等を簡潔にまとめて書いてください。)	<p>本研修では、オーストラリアの文化に触れ、建築物や自然、ユニークな動物について学ぶとともに、現地のホストファミリーの方やスウィンバン大学の学生と関わることで英語を恐れないことやコミュニケーションスキルを伸ばすことを目標に掲げた。</p> <p>主な活動内容としては、月～水に Diana 先生の授業を受けた。ここでは、reading, writing, listening の能力を伸ばすためプレゼンテーションを行ったり、テキストを読んだり、L と R の発音練習を行った。また、最後の授業では各個人が第 1 週から準備をした日本の伝統的な物語のプレゼンテーションを行った。先生のクラスでは少人数でグループワークを行うこともあった。</p> <p>バーチャルホームステイでは実際にホストマザー Taf さんの家の中や周辺を散策し、リアルなオーストラリアの生活やスラングについても学んだ。</p> <p>バディセッションは 2 回開催された。まず、少人数のグループに分けられ、現地の学生一人、韓国人学生一人、日本人学生約 4 人ほどで約 30 分雑談を行った。これを 6 回繰り返した。授業とは違い、軽い会話を楽しむことが出来た。</p> <p>オーストラリアやメルボルンの紹介、スウィンバン大学のバーチャルツアーでは、食文化やアート、現地の通行人が 0 人というリアルな今の状況を知ることが出来た。</p> <p>本研修では、少しずつではあるが達成したかった 2 つのことが出来るようになった。簡単な内容だが英語で人と会話すること・尻込みせず発言することが出来た。</p>
活動写真 1 枚 (修了証の写真でも可)	

羽ばたけ! TUT2021 報告書

研修内容

① 参加の目的や動機

私がこの研修に参加した目的はコミュニケーションスキルを伸ばそうと考えていたからです。学校の授業中でも、英語を使ったコミュニケーションは何度か経験がありますが自分の言いたいことがどんなに簡単でも咄嗟には出てこないことがありました。また、ペアで行う演習ではどちらから話始めるかなどといったことで時間を取ってしまうこともあります。そのため、文法以前に自分から発言する能力が必要だと気付きました。

私は、2020年度に3年次編入を行いました。去年は勇気が出ず、羽ばたけの研修に今年初めて参加しました。理由としては、英語があまりにもできなかったため、羽ばたけは自分が参加できるようなものではないと考えていたからです。また、費用は全額学校負担であり、とてもありがたいけれど選考に落ちるに決まっていたと思ったからです。両方とも自分の勝手な思い込みですがそれらを跳ね除け絶対に参加する強い気持ちを持ってませんでした。

しかし、参加できるならばしたいという気持ちは胸の奥でくすぶっており、英語学習アドバイザーを利用したり、ドラマや映画を見るときにも分からない単語や慣用句が出てきた時に調べたり、動画のスピードを落として一緒に発音してみたりといった自主学習を約半年間続けました。そうして学んだこととTOEICスコアにも努力が反映されていたこともあり、今年は自分も参加できる可能性があるのではないかと思えるようになり説明会に参加しました。

今年もオンライン留学であること、様々なプログラムがあり中でもこの研修はコミュニケーションの機会が多いこと、全額学校が費用を負担してくれることを知りました。去年は、コロナと一歩踏み出す勇気の無さが原因で欠けてしまったこのような機会を今回は逃さずもっと成長したいと強く感じるようになりました。そして、2週間濃密に現地の方と体当たりで話すことで、度胸や自発的に発言したり行動したりする力を身につけられそうな研修だと考えました。これは、英語で話す場合に限らず日本語でも人と積極的に話せる力につながるとも考えこの研修に参加しました。

② 研修内容

• Drop-in session 【English for Uni】

ウェルカムセッション前、自由参加形式で日本人スタッフが学生の質問に答え、不安や緊張を和らげるためのセッション。

• English for Uni_Welcome Sessions

実際に関わるスタッフや先生方の自己紹介、顔合わせ。

• ELICOS Course (English lessons) Intermediate English for Uni

毎週月曜日～水曜日に3時間行われた英語学習の授業

プレゼンテーション（自分自身を表現する3枚の写真について、日本の伝統的な物語）

テキストを読む、理解する（Maui Goes Fishing、ユネスコ世界遺産、オーストラリアの動物 Quizizz、ベジマイト、オーストラリアについてのクイズ Kahoot!）。

RとLの発音練習

語彙問題（画像や定義から単語を推測するクイズ Quizlet, CODENAMES ONLINE）

調べ学習（ユネスコ世界遺産、オーストラリアの世界遺産のうちの一つ）

ミニグループをつくり協力して上記の中のいくつかの課題をすすめる、他の学生と交流する（お題が出されて交互に答える Wordwall : EAP3 Tell me ...）。

• Virtual Homestay - Session 1～3（約 1 時間）

ハウストゥアー

オーストラリアのスラングクイズ

ホストファミリーとのフリートーク

ホストファミリーがビーチに行き中継

現地学生との交流

Question A or B

アルパカ牧場見学

• Virtual Excursion _ACMI（約 1 時間 10 分）

Australian Centre for the Moving Image というスクリーンカルチャー（映画、TV、ビデオゲーム、芸術）についての博物館をオンラインでまわる。

• Virtual Melbourne City Tour（約 1 時間）

ロックダウン中のメルボルンの市街地を回り、コーヒーがどれだけ愛されている飲み物か、どこの店がおすすめかなど現地のリアルな情報を聞く。コロナに対するメルボルンの対策についての資料も共有された。

• Swinburne Campus Tour & Staff interview（約 1 時間 30 分）

スウィンバン大学の構内を回り、建物の歴史から学生生活まで解説された。またそのあとには、あらかじめ撮影されたほかの学生の学生寮の紹介などの動画も続いた。

• English for Uni_Buddy Program 1（約 3 時間）・2（2 時間 30 分）

スウィンバンの学生と少人数のグループ（4～7）で会話する。1 回 30 分ほどで 5・6 回繰り返す。

• Swinburne lectures by Dr Adam Baker “Doing Business across the Globe”

世界でビジネスを展開していく上で必要な国の性質について、文化についての分類と分析。身近な日本について、ミニグループでディスカッションし発表。

• Presentation about Australia

オーストラリアが 6 つの州とその他の特別地域に区分されていることを学ぶ

スウィンバン大学のあるメルボルンについてスタッフがプレゼンテーションを行い、それ以外の地域をランダムにグループのテーマとする。グループ分けされた学生は 40 分ほどでスライド

と原稿を完成させ、発表を行う。

- Farewell

最後に学生がこの研修の感想や感謝を順番に言う。

- 日本人学生交流会

研修で定められていたプログラムではありませんが、日本人学生の有志 3 人によりこの研修の中で英語の勉強方法をシェアしたり、英語で話すハードルを下げたり、交流を深めたりするため、Zoom で機会がもうけられた。

③ 研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点

今回の研修では、人と話す機会と自分を表現する機会が多く設けられていた。そのため、研修前より英語を使ったコミュニケーションに慣れることが出来た。例えば、話しているときの相槌が Yes や Yeah が頻繁で単調だった。しかし、literally、maybe、How about OO?、I see、Hmn などその場面により合った返事を返せることが増えた。

また、プレゼンテーションや自己紹介でも主題に入る前に相手に内容を理解してもらえよう丁寧に説明することが大事だと学んだ。例えば、英語の授業最終日には、日本の伝統的な物語を英訳し発表する課題があった。自分は『笠地蔵』を選んだ。しかし、地蔵はとても日本的な概念であり文化的な意味をもつ。よって、説明無く本文に入っても物語についてあまり理解してもらえないと考え、地蔵についての説明を行ってから本文に入った。

他に、急遽プログラムに追加された Drop-in session や日本人学生交流会にも積極的に参加した。また、その中でもより自分達全員が発言しやすい、成長できる環境をつくるために自発的に発言した。加えて、Microsoft Team のチャット欄に自分から有用でみんなにシェアしたい内容を書き込みテキストでも自分から発信していくことができた。

自分から発信する、相手のことを思いやるといった基本的なコミュニケーションを取ることが出来た。英語で相手に誤解させず意思を伝えるために伝わりやすい表現を心がけた。また、自分から積極的に話すことが出来た。

問題点は英語の基礎的な能力値が低いことである。この部分はこれからも続ける英語学習向上させていこうと考えている。

行動目標 1

学生の方と、とりとめもない雑談を行う。

実際に海外へ旅行したり、暮らすとなったときに必要な能力であり、雑談こそコミュニケーション能力や英語力が試されるものであると考えている

行動目標 2

文化的な交流を行う。

自分の中に、オーストラリアのぼんやりとしたイメージはあるものの、実際にどんな家・部屋に住んでいる方が多いのか、食卓に出て来る野菜はどのようなものなのかについて全くの無知であ

る。これ以上無い、良い機会なので分からないもの（習慣、スラングなど）についてどんどん聞いていきたい。

研修前に設定した上記行動目標 2 つをほぼ達成できた。

問題点

④ 今後の目標、課題、当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し

当初設定したように、今後も英語に触れていくことを第一の目標とする。

③で書いたように問題点は英語の基礎的な能力値が低いことである。特に、語彙や単語の定義、類義語・対義語について弱く取り組むべき課題である。

⑤ その他感想など

今回初めて英語の研修に参加し、バーチャルですがホームステイも出来ました。昨年度は挑戦できず、編入前もお金の関係で 1 度オーストラリアの短期ホームステイを諦めたことがあります。今年はそういったしがらみ無く、挑戦することが出来ました。

参加前はとても緊張し、何も聞き取れなかったら・理解できなかったらどうしようかと気をもむばかりでした。しかし、いざ研修が始まると本当に楽しくかったです。英語で自分の思ったことをどうしたら伝えられるのか、シンプルにまとめられるのかを考えながら話をするのは大変ではありましたが、やっと英語でコミュニケーションできる嬉しさがそれをはるかに上回りました。

研修に参加するためのハードルはとても高く見えたのですが、挑戦してみるとそうではなく、とても楽しいものでした。これからはチャンスが目の前に転がっていて、挑戦したいけれど「自分なんかじゃ」と思った時には、まず募集要項を確認し、窓口の方に相談することを覚えます。チャンスを逃さないためにもとても大事で基本的なことですが、今回その重要性を再確認しました。

この研修に参加できることが決まったとき、とても嬉しくて思わず母に電話したくらいです。実際に参加してみると、言葉がつかえたり、四字熟語でしか表現したい内容が出てきて直訳しかできず困ったり、グループのみんなで話をするためにはどうしたらいいか悩んだりと全て順調に行えたわけではありません。しかし、つまりいた時には周りに助けってもらったり、逆に自分が相手を助けたりとコミュニケーションを取ることが出来ました。自分の英語力でも案外どうにかなったことに驚きました。発言する勇気を出せて良かったですし、自信になりました。

本研修の参加費を全額学校負担にし、英語学習の機会をつくって頂けたことに心より感謝申し上げます。このような支援が無ければ、私はこの研修を受けられていなかったと思います。自分にもチャンスがあることがとても嬉しかったです。

また、何度も自分の不安な点などについての相談に対応して下さった担当者様。本当にありがとうございました。研修に対する物ではない不必要な不安を抱かずに応募し、研修に参加することが出来ました。何かあれば相談できる方が学内にいるという事実がとても心強かったです。

• 研修後も研修で知り合った人たちとつながりを保つためのお役立ち情報

インスタグラムのアカウントを持っていると連絡先の交換に便利です。できればいくつか投稿をしておくで連絡先を交換した相手に興味を持ってもらいやすく、また誰のアカウントかが伝わりやすいです。画像メインの SNS なので投稿をパッと見ただけで人物像が伝わります。国内・国外問わず世界的に利用者が多いので活用すると良いと思います。私はアカウントを持っていなかったのですが LINE を交換しましたが連絡先交換のハードルが少し高かったです。インスタグラムは各個人が ID をチャット欄に流し繋がっていましたが、LINE は連絡先を知りたい相手と話して個人間で交換しました。